

## 【ご案内】

### 「家庭科の授業を語る会 (第191回)」の開催

啓蟄を過ぎ、木々の芽も膨らみ始めました。前回の「語る会」では、オンラインで札幌、埼玉、東京、京都など遠方からのご参加があり、インターネットの有効性を実感することができました。

第191回の「語る会」では、松本先生に“家庭に関する学科”である「生活文化科」でのKahoot! やGoogle クラウドルームを活用した実践事例について話題提供いただきます。今回はワークショップ形式で行いますので、対面を中心にし、Zoomでも参加可能なハイブリッドでの開催にしたいと考えています。どちらでもお気軽にご参加下さい。

- 日時 : 2024年3月16日(定例の第3土曜日) 午後2時から午後4時(参加費:無料)
- 場所 : 宮崎大学教育学部技術・家庭科棟T211教室 zoomは下記のアドレスに接続下さい↓  
<https://miyazaki-u-ac-jp.zoom.us/j/83100456711?pwd=0E9EUUZ6Zkp4WFRLd2Z2a25CT3lDQT09>  
○ミーティングID: 831 0045 6711 ○パスコード: &8q.XLci
- 話題 : 生活文化科における食物調理技術検定取得を目指した授業実践事例
- 話題提供者 : 松本仁美 (宮崎農業高校)

### 「家庭科の授業を語る会 (第190回)」(2024年2月17日)の報告

○話題 : 一人ひとりの児童・生徒を尊重する家庭科授業の実現可能性

○話題提供者 : 瀧元有理 (北海道大学大学院教育学院)

第190回の語る会では、北海道大学大学院の瀧元先生から、修士論文の内容を基にした話題を提供いただきました。

瀧元先生は、「自分らしく生きる・生活を楽しむための家庭科」を目指すために、自らが経験した2つモヤモヤを基に家庭科について考えています。1つ目は、社会科学的な家庭科です。例えば、フェアトレードチョコレートやマイクロプラスチックに着目した家庭科の授業実践ことです。2つ目は、「調理実習は楽しければいいのよ」論です。年度末の子どもから出る家庭科の感想が、「調理実習が楽しかった。」でも一概にダメとは言えないのではというお考えでした。

瀧元先生は、子どもの学びを進めていく上で、子どもの学びがどのように変化するかに着目して研究をされていました。構成主義で考えられており、これは、知識は身体を含む多様な感覚器官と結びつきながら、子どもが育成していくものであるという考えです。子どもがどのように学んでいるのかを知っていくことが大切であり、協働学習やその場の様子から、子どもが何を感じ、何を考えたのかを捉えることが必要であることを学ぶことができました。真実性の実感とは、「“答えの発見”にあるのではなく、“可能性の広がり”の実感である。」という言葉に深く共感しました。ありがとうございました。

(文責: 徳永)

連絡先: 家庭科の授業を語る会 (事務局)

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美 (大学院教育学研究科) : Tel/Fax 0985-58-7539 (直通)

: メールアドレス [e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp)

大矢 英世 (教育学部) : Tel/Fax 0985-58-7542 (直通)

: メールアドレス [hideyo@cc.miyazaki-u.ac.jp](mailto:hideyo@cc.miyazaki-u.ac.jp)

●「家庭科の授業を語る会」のホームページ: <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>

●旧Twitter: fukumi@家庭科を学ぶ子ども達のために <https://twitter.com/BOH0pr7qtF2EVwi>